2023年11月 現在

FUJITSU Software
Systemwalker Centric Manager Standard Edition V17.0.0

Systemwalker Centric Managerは、情報システムの運用管理を行うための統合基盤となる商品です。

Systemwalker Centric Manager（システムウォーカーセントリックマネージャー）は、システム運用のライフサイクル（導入/設定～監視～復旧～評価）に従い、ソフトウェア資源の配付、システムやネットワークの集中監視、リモートからのトラブル復旧などの優れた機能で運用管理作業を軽減します。また、このライフサイクル管理によりマルチプラットフォーム環境やインターネット環境など、最新のビジネス環境におけるシステムの統合管理、運用プロセスの標準化（ITIL）、運用セキュリティの統制を支援します。

Copyright 2023 Fujitsu Limited

適応機種　概要

- **業務サーバ**

  SPARC Servers / SPARC Enterprise Mシリーズ / SPARC Enterprise Tシリーズ / マルチベンダーサーバ・クライアント / FUJITSU Cloud Service for SPARC

- **運用管理クライアント**

  FMV / マルチベンダーサーバ・クライアント

- **クライアント**

  FMV / マルチベンダーサーバ・クライアント

Copyright 2023 Fujitsu Limited

適応OS　概要

- **業務サーバ**

  Solaris 11(64bit)

- **運用管理クライアント**

  Windows 10(64-bit) / Windows 10 / Windows 8.1(64-bit) / Windows 8.1

- **クライアント**

  Windows 10(64-bit) / Windows 10 / Windows 8.1(64-bit) / Windows 8.1

Copyright 2023 Fujitsu Limited

1. セールスポイント

【システム導入が容易です】

・統合インストーラにより、複数機能を簡単にインストールできます。

・テンプレートやサンプルを提供していますので、すぐに利用できます。

・各拠点での要件に合わせたインストール情報を作成して、リモート環境への無手順導入（サイレントインストール）と自動初期設定（クライアント、業務サーバ、部門サーバ）が行え、インストール完了後は即時に運用を開始することができます。

・運用管理の初心者でも、一週間程度でSystemwalker Centric Managerを使用した運用管理システムを理解でき、環境構築が行えるようになります。

【アウトソーシング運用ができます】

・運用管理のアウトソーシングを行うツールとして利用できます。

・HttpsやSMTPプロトコルを利用して運用管理することにより、インターネット経由で情報システムのライフサイクル管理ができます。

【情報システムのライフサイクルを管理できます】

・分散されたシステムを集中管理できます。

-分散システムのライフサイクル(導入／設定-監視-復旧-評価)を、運用管理者が想定したポリシーベースに管理できます。

一箇所で分散システムを集中監視できるため、システム管理者の現地対応工数を削減できます。

-集中監視によりエンドユーザがより早くシステム異常を発見し、迅速な切り分けと対処が可能になります。

-短期間で確実に業務アプリケーションやソフトウェア資源の導入が可能となります。

-ネットワーク／システムの性能を分析することでシステム構成の見直しができます。

・センタ集中型の基幹業務を管理できます。

-基幹業務のトラブルを早期に発見し、迅速に対処が行えるため、24時間、365日システムの安定稼働を支援できます。

-信頼性や高性能を要求されるシステムを確実に管理できます。

-複雑なトラブル対処を定型化することでオペレータは簡単にトラブル対処ができます。

-大量のアプリケーションが稼働しているシステムでトラブルが発生しても、どの業務に影響があるかすぐに把握できるため、トラブル対処がスムーズに行えます。

【マルチプラットフォーム（マルチベンダ）環境のライフサイクルを管理できます】

・Windows，Solaris，Linux，HP-UX，AIX，などプラットフォームが混在したシステムも一台の運用管理サーバで統合管理できます。

・プラットフォームが混在したシステムでも同一のコンソールを使用し、同一の監視方法／操作方法で運用管理できるので運用管理工数を削減できます。また、統合コンソールを使用することで、システムに依存しない運用管理が可能となります。

・各システムのログを収集し、一括管理できます。

・富士通製ミドルウェアの修正情報を管理できます。

【DMZ（公開ゾーン）上のシステム管理ができます】

・DMZ上のシステムのライフサイクルを管理し、24時間365日業務の安定稼働を支援します。DMZ上のシステム構成管理、アプリケーション保守、監視、復旧操作および評価を行います。

・Firewallなどで守られた環境もHttpsやSMTPプロトコルを利用して運用管理することにより安全性を低下させずに管理できます。

・Firewall／wwwサーバへの不正アクセスやアタックを監視できます。

【Interstage Application Serverの管理ができます】

・Interstage Application Serverで構築された業務の安定稼働を支援します。

Copyright 2023 Fujitsu Limited

-業務システムを集中管理することで、日々の運用やトラブルの復旧を効率よく行うことができます。

-業務アプリケーションの異常をリアルタイムで検出できるため、迅速にトラブルの復旧が行えます。

-オンラインで確実に配付することによりソフトウェア資源の導入負荷を軽減できます。遠隔地からのシステムの保守／管理作業が容易に行えます。

【CRMビジネス環境の管理ができます】

・CRMビジネス環境のライフサイクルを管理することにより、CRMビジネスの安定稼働を支援します。

・サーバ／ミドルウェア／ネットワークの稼働状況の監視およびメッセージの監視ができます。

・リモートからトラブル対処ができます。

・プログラム／データの配付が確実に効率的に行えます。

【IDC環境の管理ができます】

・IDC環境を管理することにより、データセンタの安定稼働を支援します。

・データセンタ内のFirewallで囲まれた各社のシステムを安全に管理できます。

・複数の会社のシステムを一台の運用管理サーバで統合して管理できます。

・サーバの稼働監視、異常監視、性能監視ができます。

・サーバ上で動作するアプリケーションの保守がオンラインでできます。

2. 機能詳細

Solaris版は業務サーバのみの提供となります。運用管理サーバ、部門管理サーバ、Open監視サーバなど業務サーバ以外はWindows版またはLinux版をご利用ください。

【フレームワーク】

(1) ネットワークの構成情報の管理/システムの構成情報の管理

ネットワークに接続されたシステムやネットワーク機器(ノード)の検出、サーバーのインベントリ情報の収集を行い、システムの構成を一元管理します。VM環境の構成も管理できます。

収集/管理した情報から、ネットワークやシステムの構成と影響範囲が把握できるため、障害調査などに利用できます。

(2) コンソール

「Systemwalkerコンソール」は、導入・監視・復旧・評価などの運用管理操作が統合されたSystemwalker Centric Managerのメインコンソールです。

監視画面は、管理者のイメージしやすいアイコンで表現され、大規模システムもツリー構造により容易に集中監視/操作ができます。さらに、業務の視点で導入から復旧操作まで、業務のライフサイクルに従って管理を行うことができます。

また、WWWブラウザに対応した「Systemwalker Webコンソール」を利用すると、遠隔地からもシステムの状況を監視できます。「Systemwalker Webコンソール」のポータル画面では、イベントの発生状況（発生数、期間での発生傾向やシステムグループごとの発生傾向など）を一画面で監視できるため、オペレーターは簡単な操作でイベント情報を絞り込み、エラー情報（エラーイベントメッセージ、エラー発生システム）を確認することができます。

Systemwalkerファミリ製品との連携も強化しており、トラブル発生時に必要な画面をSystemwalkerコンソールから即時に起動できます。

(3) ポリシー配付

Systemwalker Centric Managerは、監視のための環境設定やシステム稼働要件をポリシーとして集中管理し、被管理サーバーやクライアントに配付・適用します。

特定のノードやイベントに対し、ポリシーの設定画面上で監視項目と監視対象を選ぶだけで、基本的な監視がスタートできます。また、ポリシーを別ノードに複写したり、ポリシー情報を出力して確認したりすることができるため、システムの構築を容易に行うことができます。

(4) Systemwalker自身の監視

Systemwalker自身のダウンや通知の遅延を検出することができます。

(5) 動作環境定義チェックツール

Copyright 2023 Fujitsu Limited

Systemwalker Centric Manager が動作するために必要な動作環境として、正しいかどうかを検証する動作環境定義チェックツールを提供します。

【導入／設定(デプロイメント)】

(1) 資源の配付

サーバー/クライアントで使用するアプリケーション、データ、ウィルスパターンファイルなどの資源を、運用管理サーバで集中管理し、サーバー/クライアントにオンラインで配付できます。

(2) サーバー無停止での保守運用（オンラインバックアップ）

Systemwalker Centric Managerを停止しないで、運用を継続したままバックアップを行うことができます。

(3) ソフトウェア修正管理

富士通UpdateSiteと連携し、富士通ミドルウェアの修正適用状況を一括管理します。

パッチの適用状況確認からダウンロードするまでの作業手番を削減できるため、ソフトウェアの保守管理作業を軽減できます。

(4) Systemwalkerテンプレート

異常メッセージの監視や常駐プロセスの稼働監視定義を、Systemwalker テンプレートとして提供します。

監視定義や対処までの監視作業に必要な定義を簡単に設定できます。

【監視（モニタリング）】

(1) ハイブリッド監視

オンプレミスと、パブリッククラウド（Amazon Web Services(AWS)、Microsoft Azureなど）を1つのコンソールで集中監視することで、ハイブリッド・クラウドの運用管理が煩雑となる弱点を解消し、安定稼働とコスト削減を実現します。

また、Open監視強化テンプレートを利用すると、Amazon CloudWatchやAzure Monitorなどのクラウド監視ツールと連携し、オンプレミスの監視画面と同じ画面で、クラウドベンダーが提供するIaaS/PaaS/SaaSなどのサービス（以降、クラウドサービスと記載します）を監視できます。クラウド監視ツールの仕様差や、手順書の変更に影響を受けることなく、オンプレミスとクラウドサービスを同じ画面で監視することができるため、迅速な状況把握と対処指示、トラブルからの早期復旧が可能になります。

(2) システムの監視／ネットワークの監視（稼働／障害／性能）

サーバーやクライアント、ルータやゲートウェイなどのネットワーク機器を自動検出し、稼働/停止などの状態を監視画面に表示したり、状態の変化をイベントとして管理者に通知したりできます。

無線LANアクセスポイントの稼働状態、DHCPクライアント、ノード情報の変更（ネットワークへの新規接続、IPアドレスの変更、ノードの削除、未登録ノードの接続など）も監視できます。

また、しきい値監視を行うことで、トラブルの予兆を早期に検出できます。さらに、ハードウェア、OS、およびソフトウェアなどが出力するシステムメッセージや、イベントログ、SNMPトラップをリアルタイムに集中監視し、異常発生箇所や内容の特定および対処が迅速に行えます。

(3) アプリケーションの監視（稼働／障害／性能）

稼働するアプリケーションを自動検出し、稼働状況を監視画面に表示します。

また、Interstage Application Serverの業務（ワークユニット）の構成管理、稼働状態、性能も監視できます。

(4) 業務の監視

業務を構成するネットワーク、システム、アプリケーションなどをグルーピングし監視できます。異常発生時には、トラブルの影響範囲が瞬時に把握できます。

(5) 計画的なイベント監視

計画停電やサーバー保守などで一時的に監視する必要がないノードに対し、監視を抑止することができます。運用管理者は、監視不要なメッセージ、無意味なメッセージに惑わされることがなくなります。また、複数のメッセージを集約したり、同一メッセージを抑止したりすることもできます。

(6) 管理者への通知

トラブル発生をメールや音声、ポップアップメッセージなどで管理者に通知することができます。また、時間帯を指定して通知手段を変えることもできます。

(7) マルチテナント監視

Copyright 2023 Fujitsu Limited

業務システムに合わせて自由に監視設定・監視業務ができる監視機能である「Open監視」機能を利用することで、マルチテナント監視が可能です。

Open監視機能では、シンプルなアーキテクチャの標準的なインターフェース（Command Line Interface／Application Programming Interface）を提供しており、これらのインターフェースを利用して、マルチテナント監視（業務システムごとに役割に応じた監視定義／監視業務を行う運用）を行うことが可能です。

マルチテナント監視により、業務システムはOpen監視機能で監視し、インフラ環境は統合監視機能で監視することが可能になるため、業務システムを管理する部門と、共通インフラを管理するシステム管理部門で分担して管理することで、オペレーターの負荷を軽減できます。さらにOpen監視機能で監視しているメッセージを統合監視機能でひとまとめにして監視することもできるため、オペレーターの作業を効率化することも可能です。

Open監視機能は、監視系OSS(Open Source Software)である「Zabbix」の機能をベースとして、「導入を容易とするスマートセットアップ」、「保守性を向上させるSystemwalker Centric Managerの共通機能（調査用の資料採取、資産のバックアップ・リストア）」を強化した監視機能です。スマートセットアップによって簡単に導入可能なだけでなく、独自のテンプレートも提供しているため、マネージャで監視対象を設定することなくエージェントからの要求で監視を開始でき、業務部門がすぐに監視可能な環境を準備できます。例えば、仮想プロビジョニング後に監視を開始できるように監視設定が可能です。なお、Systemwalker Centric Managerでは、Open監視機能以外の監視機能を「統合監視」機能と呼びます。

(8) インストールレス方式による監視

管理対象のサーバーに、Systemwalker Centric Managerのエージェントをインストールすることなく、サーバーの情報を収集することができます。このため、稼働中のサーバーであっても、業務に影響をあたえることなく安心して監視対象とすることができます。Systemwalker Centric Managerのエージェントライセンスでは、管理対象のサーバーの状況に合わせて、インストール型エージェントを導入した監視、インストールレス方式による監視を選択することができます。

【復旧（リカバリー）】

(1) リモート操作・リモートコマンド

Systemwalkerコンソールから遠隔地のWindowsサーバー/Windowsクライアントの画面をリモート操作できます。

また、リモートでコマンドを発行して操作することができます。

(2) リモートからの電源投入・切断

遠隔地のWindowsクライアントの電源の投入/切断を行うことができます。

(3) 障害対処の自動化（自動アクション）

発生したイベントに対して、あらかじめ対処するためのアクション（コマンド、スクリプト、プログラム等）を登録し自動対処できます。

【評価（アセスメント）】

(1) システムの評価／ネットワークの評価

Systemwalker Centric Managerで収集 / 蓄積されたトラブルの発生状況や性能情報は、目的にあわせて分析できます。ネットワークやシステムの性能情報をログとして採取して傾向を分析できます。

【セキュリティ】

(1) サーバアクセス制御

サーバー上の作業(ログインやファイル操作)を監査ログへ記録します。また、アクセス制御機能により、サーバーの不正使用や情報漏えいなどを未然に防ぎます。

GUIを使用したセキュリティポリシーの設定、レジストリに対するアクセス制御が行えます。

(2) 監査ログ管理

分散したサーバーのログを収集して、運用管理サーバ上で一元管理できます。また、セキュリティコンプライアンスの監査証跡に必要なログの収集・保管が可能です。暗号化されたバイナリファイルなど収集し、すべてのファイルが収集対象となります。

また、Interstage Navigator Server と連携し、監査ログの定期的な分析を行うことで、異常の兆候を検出します。特定事象の情報を複数ログから共通情報で洗い出し、原因の追究が可能です。

【SDK】

Copyright 2023 Fujitsu Limited

(1) インテリジェントサービス

Systemwalkerの機能をお客様の運用方法にあわせカスタマイズするためのスクリプトを提供します。各種のサンプルスクリプトの必要部分を設定するだけで、容易にシステムを拡張することができます。

・監視画面に通知するメッセージ内容をオペレーターにとってわかりやすい内容に変換

・複数のメッセージを関連付けて通知する

【Systemwalker導入支援】

(1) サイレントインストール

サイレントインストールでSystemwalker Centric Manager自身をサーバーやクライアントに導入することができます。監視定義の初期設定やインストール情報を運用管理サーバだけでなく拠点のサーバーでもローカルに作成できるため、製品導入に関わる手番を短縮します。SystemcastWizard Professionalと連携して無手順導入と自動初期設定をすることもできます。

3. 利用による効果

効率的で集中的な運用管理により、安定した分散処理業務の運用が可能になります。

・分散システムの監視コストの削減

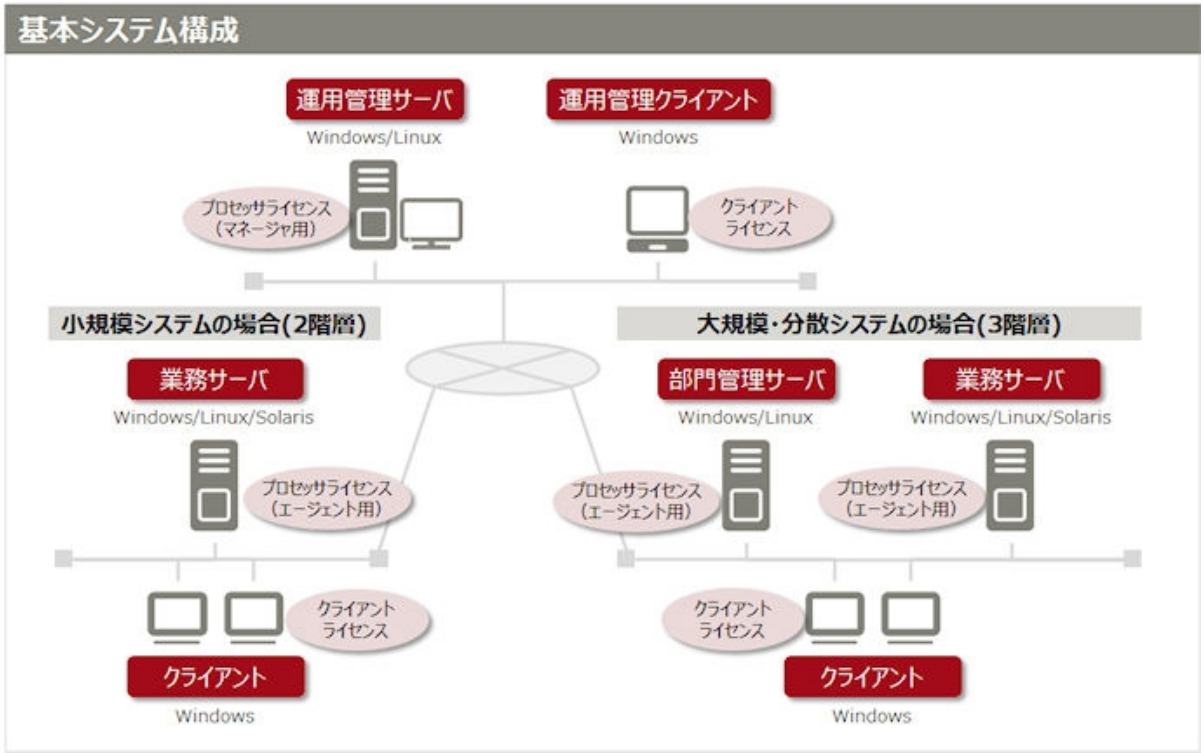
複数の被監視システムを一台の運用管理サーバで集中監視できるため、被監視システムの監視コストが削減できます。また、ポリシー運用により、分散システム全体を運用管理者が想定したポリシー通りに管理することができます。

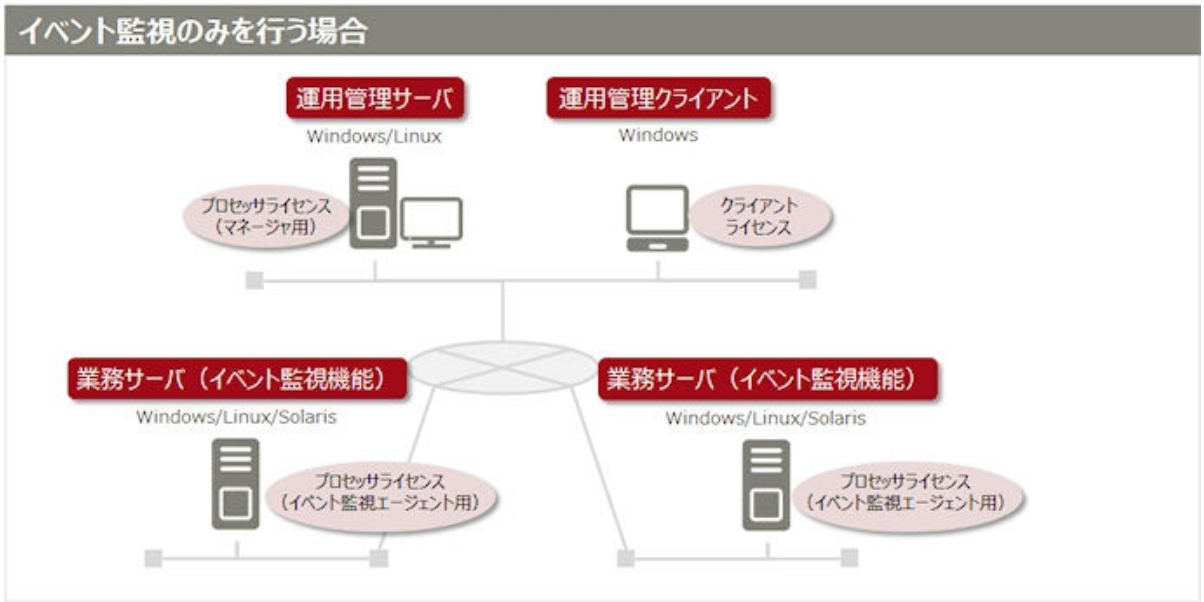
・運用管理作業の軽減

分散システムでの資源配付やインベントリ管理などの煩雑な運用管理作業の軽減が図れ、工数の削減ができます。また、ビジュアル化された監視画面により、ネットワーク障害やシステム障害の通知と発生箇所の検出が簡単になり、迅速な対応ができます。

Copyright 2023 Fujitsu Limited

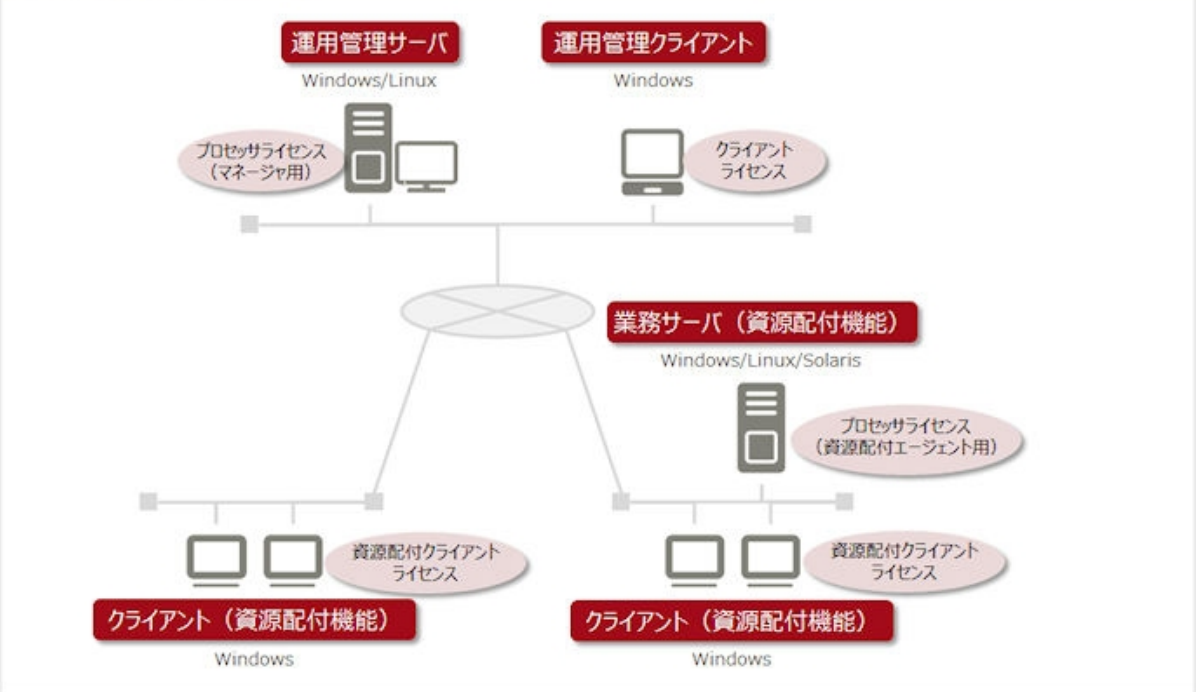
システム/機能構成図





Copyright 2023 Fujitsu Limited

資源配付のみを行う場合



Copyright 2023 Fujitsu Limited

V15.1.1からV17.0.0への機能強化項目は、以下のとおりです。

1. 動作環境の拡大

・クライアント（クライアント、運用管理クライアント）のサポートOSの追加

- Windows 10
- Windows 10 (64-bit)

Copyright 2023 Fujitsu Limited

標準添付品

- **オンラインマニュアル**

  ・オンラインマニュアルについては、留意事項の「オンラインマニュアルについて」を参照ください。

Copyright 2023 Fujitsu Limited

商品体系

【メディア】

・Systemwalker Centric Manager Standard Edition メディアパック(エージェント用) (32bit) V17.0.0

【永続ライセンス】

・Systemwalker Centric Manager Standard Edition プロセッサライセンス(エージェント用) (1年間24時間サポート付) V17

・Systemwalker Centric Manager Standard Edition プロセッサライセンス(イベント監視エージェント用) (1年間24時間サポート付) V17

・Systemwalker Centric Manager Standard Edition プロセッサライセンス(資源配付エージェント用) (1年間24時間サポート付) V17

・Systemwalker Centric Manager 1クライアントライセンス (1年間24時間サポート付) V17

・Systemwalker Centric Manager 20クライアントライセンス (1年間24時間サポート付) V17

・Systemwalker Centric Manager 1資源配付クライアントライセンス (1年間24時間サポート付) V17

・Systemwalker Centric Manager 20資源配付クライアントライセンス (1年間24時間サポート付) V17

本商品の永続ライセンス製品には、初年度の「SupportDesk Standard」がバンドルされています。

【サブスクリプションライセンス／サポート】

[サブスクリプションライセンス／サポート(月額払い)]

・Systemwalker Centric Manager 1クライアントライセンス (SL&S)

・Systemwalker Centric Manager 20クライアントライセンス (SL&S)

・Systemwalker Centric Manager 1資源配付クライアントライセンス (SL&S)

・Systemwalker Centric Manager 20資源配付クライアントライセンス (SL&S)

[サブスクリプションライセンス／サポート(まとめ払い)]

・Systemwalker Centric Manager 1クライアントライセンス (SL&S) 7年

・Systemwalker Centric Manager 20クライアントライセンス (SL&S) 7年

・Systemwalker Centric Manager 1資源配付クライアントライセンス (SL&S) 7年

・Systemwalker Centric Manager 20資源配付クライアントライセンス (SL&S) 7年

Copyright 2023 Fujitsu Limited

購入方法

1. メディアパックについて

メディアパックは、媒体（CD/DVD等）のみの提供です。使用権は許諾されておりませんので、別途、ライセンスを購入する必要があります。また、商品の導入にあたり、最低1本のメディアパックが必要です。バージョンアップ／レベルアップを目的に本メディアパックのみを手配することはできません。

2. プロセッサライセンスについて

プロセッサライセンスは、本商品をインストールするサーバに搭載されているプロセッサ数に応じて以下のとおりに必要となるライセンスです。

・シングルコアプロセッサの場合は、1プロセッサ（CODモデルの場合はCPU RTUライセンスを持つ1稼働CPU）あたり1本の購入が必要です。

・マルチコアプロセッサの場合は、コアの総数に特定の係数を乗じた数（小数点以下端数切上げ）分のライセンスの購入が必要です。

-SPARC M12/M10では、CPUコアアクティベーションキーにより有効化されたコアの総数に特定の係数を乗じます。

-SPARC Enterprise/PRIMEPOWERのCODモデルでは、CPU RTUライセンスを持つ稼働CPU上のコアの総数に特定の係数を乗じます。

-マルチコアプロセッサにおける係数については、「関連URL」に記載の「ソフトウェア：富士通（インフォメーション&ダウンロード）」内、「ライセンスについて、くわしく知る」を参照ください。

・業務サーバには（エージェント用）、システムのイベント監視機能だけが必要な業務サーバには（イベント監視エージェント用）、資源配付機能だけが必要な業務サーバには（資源配付エージェント用）の各種ライセンスを必要数分手配願います。（エージェント用）のライセンスは、（イベント監視エージェント用）および（資源配付エージェント用）を包含しています。

また、本ライセンスは、Systemwalker Centric Managerをインストールしない（インストールレス方式）で、アプリケーション監視、サーバ性能監視を行う場合にも選択可能です。インストールレス方式で監視する場合に購入が必要なライセンスの詳細は下記の「(注)」を参照ください。

・イベント監視エージェント用ライセンスは、従来、Systemwalker Event Agentで提供していた、業務サーバの機能のうち、イベント監視機能に限定して提供するライセンスです。システムのイベント監視機能だけが必要な業務サーバには、本ライセンスを手配してください。

また、本ライセンスは、Systemwalker Centric Managerをインストールしない（インストールレス方式）で、シスログ/イベントログ監視、リモートコマンド投入、ログファイル監視、インベントリ情報の収集を行う場合にも選択可能です。インストールレス方式で監視する場合に購入が必要なライセンスの詳細は下記の「(注)」を参照ください。

・資源配付エージェント用ライセンスは、従来、Systemwalker Software Deliveryで提供していた、業務サーバの機能のうち、ソフトウェア資源（ユーザデータ、およびインストールパッケージ）を配付する機能に限定して提供するライセンスです。資源配付機能だけが必要な業務サーバには、本ライセンスを手配してください。

・以下を導入する場合は、Windows版またはLinux版を導入してください。ライセンスの購入方法についてはWindows版またはLinux版のソフトウェアガイドを参照してください。

- 運用管理サーバ
- 部門管理サーバ
- Open監視サーバ
- Open監視プロキシ
- Open監視エージェント

(注) Systemwalker Centric Managerをインストールしない（インストールレス方式）で監視する場合について

インストールレス方式では、利用する機能の違いによって購入が必要なライセンスが異なります。

Copyright 2023 Fujitsu Limited

- インストールレス方式で、シスログ/イベントログ監視、リモートコマンド投入、ログファイル監視、インベントリ情報の収集を行う場合は、監視するサーバに搭載されているプロセッサ数(マルチコアプロセッサ搭載サーバの場合はコア数)に応じて、Systemwalker Centric Manager プロセッサライセンス(イベント監視エージェント用)の購入が必要です。

- インストールレス方式で、アプリケーション監視、サーバ性能監視、シスログ/イベントログ監視、リモートコマンド投入、ログファイル監視、インベントリ情報の収集を行う場合は、監視するサーバに搭載されているプロセッサ数(マルチコアプロセッサ搭載サーバの場合はコア数)に応じて、Systemwalker Centric Manager プロセッサライセンス(エージェント用)の購入が必要です。

3. クライアントライセンスについて

(1)購入方法について

・運用管理クライアント：

運用管理クライアントをインストールする台数分のクライアントライセンスを購入してください。サーバの台数には依存しません。

・クライアント：

資源配付、インベントリ管理およびリモート操作等のクライアント機能をインストールする台数分のクライアントライセンスを購入してください。サーバの台数には依存しません。

・資源配付クライアント：

資源配付クライアントライセンスは、従来、Systemwalker Software Deliveryで提供していた、クライアント機能のうち、ソフトウェア資源（ユーザデータ、およびインストールパッケージ）を配付する機能に限定して提供するライセンスです。クライアントのうち、資源配付のクライアント機能だけをインストールする台数分のライセンスを購入してください。サーバの台数には依存しません。

(2) サブスクリプションライセンス／サポートでの最新プログラムの提供について

サブスクリプションライセンス／サポート契約 の一環として、最新バージョン/レベルのプログラムを提供いたします。（お客様からのご要求が必要です。）

4. Oracle Real Application Clusters運用時の購入について

・Oracle Real Application Clusters(Oracle RAC)は、Oracle データベースをクラスタ構成にするソフトウェアです。Oracle RACが導入されているサーバを監視するために、Systemwalker Centric Managerの業務サーバを導入してください。その場合、Systemwalker Centric Manager Standard Edition（エージェント用）ライセンスでご利用になれます。

5. 購入例

以下システム構成の場合、購入対象商品と購入数は下記のようになります。

〔システム構成〕

・ 運用管理サーバ(2コア、2CPU 構成) ： 1台（Linuxサーバ）

・ 部門管理サーバ(2コア、2CPU 構成) ： 2台（Linuxサーバ）

・ 業務サーバ(2コア、1CPU 構成) ： 2台

・ インストールレス方式で 「アプリケーション監視、サーバ性能監視」 を行う業務サーバ(2コア、1CPU構成) ： 5台

・ イベント監視のみを行う業務サーバ(2コア、1CPU構成) ： 2台

・ インストールレス方式で 「シスログ/イベントログ監視、リモートコマンド投入、ログファイル監視、インベントリ情報の収集」のみ を行う業務サーバ(2コア、1CPU構成) ： 10台

・ 資源配付のみを行う業務サーバ(2コア、1CPU構成) ： 2台

・ 運用管理クライアント ： 1台

・ クライアント ： 6台

・ 資源配付のみを行うクライアント ： 3台

〔対象製品と購入数〕

- Linux版 Systemwalker Centric Manager Standard Edition メディアパック (64bit) V17

Copyright 2023 Fujitsu Limited

- Solaris版 Systemwalker Centric Manager Standard Edition メディアパック(エージェント用) (32bit) V17

→ 各1枚

- Linux版 Systemwalker Centric Manager Standard Edition プロセッサライセンス(マネージャ用) V17

→ (2コア×2CPU×コア係数)×1台分

- Linux版 Systemwalker Centric Manager Standard Edition プロセッサライセンス(エージェント用) V17

→ (2コア×2CPU×コア係数)×2台分

- Solaris版 Systemwalker Centric Manager Standard Edition プロセッサライセンス(エージェント用) V17

→ (2コア×1CPU×コア係数)×2台分 ＋ (2コア×1CPU×コア係数)×5台分

- Solaris版 Systemwalker Centric Manager Standard Edition プロセッサライセンス(イベント監視エージェント用) V17

→ (2コア×1CPU×コア係数)×2台分 ＋ (2コア×1CPU×コア係数)×10台分

- Solaris版 Systemwalker Centric Manager Standard Edition プロセッサライセンス(資源配付エージェント用) V17

→ (2コア×1CPU×コア係数)×2台分

- Systemwalker Centric Manager 1クライアントライセンス (SL&S)

→ 1本 ＋ 6本

- Systemwalker Centric Manager 1資源配付クライアントライセンス (SL&S)

→ 3本

6. バージョンアップ時の購入に関する留意事項(12.x以降からのバージョンアップ／レベルアップについて)

・以下の商品をお持ちの場合は、有償サポート・サービス「SupportDesk」のサービスの一環として、新バージョンを提供いたします。（お客様からのご要求が必要です。）

・「SupportDesk」を導入されていない場合は、新バージョン商品を改めてご購入頂く必要があります（価格の優遇はございません）のでご注意ください。

【12.x以降からのバージョンアップ／レベルアップ対象商品】

Systemwalker Centric Manager Standard Edition 12.x/V13/V15

Systemwalker Event Agent Standard Edition 12.x/V13

Systemwalker Software Delivery Standard Edition 12.x/V13

7. バージョンアップ時の購入に関する留意事項(11.0以前からのバージョンアップについて)

11.0以前の本商品をお持ちの場合は、弊社営業/SE にお問い合わせください。

8. ダウングレード使用について

本商品のライセンスでは、ダウングレード使用（本商品の旧バージョンを使用)する権利はありません。

対象のバージョンを使用する場合は、対象のバージョンに対応したライセンスをご購入ください。

Copyright 2023 Fujitsu Limited

関連ソフト

1. Systemwalkerファミリ製品との連携

データベースソフトOracleの稼働管理、トラブル分析、対処などを集中管理する場合、下記のいずれかのオプション製品の導入が必要です。

同一サーバ上にSystemwalker Centric Managerと以下のSystemwalker for Oracle製品を導入する場合には、32ビット商品同士の組み合わせで使用してください。

〔オプション製品〕

・Systemwalker for Oracle Enterprise Edition V13.3.0以降

・Systemwalker for Oracle Standard Edition V13.3.0以降

2. マルチプラットフォーム対応

マルチプラットフォームの分散システムを管理する場合、各プラットフォームに対応したSystemwalker Centric Manager商品が必要です。

3. LAN二重化構成対応

LAN二重化の構成とする場合、以下の製品が必要です。

PRIMECLUSTER GLS 4.6まで

4. PRIMECLUSTER対応

この製品はPRIMECLUSTERには対応しません。

5. SafeCLUSTER対応

この製品はSafeCLUSTERには対応しません。

Copyright 2023 Fujitsu Limited

動作保証周辺機器

なし

Copyright 2023 Fujitsu Limited

留意事項

1. WindowsデスクトップOS(64-bit)上での動作

クライアント／運用管理クライアントは、以下のOSのWOW64(注)サブシステム上で、32ビットアプリケーションとして動作します。

- Windows 8.1(64-bit)
- Windows 10(64-bit)

注：Windows 32-bit On Windows 64-bit

2. パッケージ構成について

Systemwalker Centric Manager Standard Edition メディアパック には、以下のプログラムおよびマニュアルが同梱されています。

V17のメディアパックでは、DVD媒体で提供します。

・Systemwalker Centric Manager メディアパック Disc 1

[サーバプログラム (32bit) Disc]

- エージェントプログラム(業務サーバ(32bit))【SE版/EE版】
- オンラインマニュアル
- ソフトウェア説明書

・Systemwalker Centric Manager メディアパック Disc 2

[クライアントプログラム (Windows(32bit)) Disc]

- クライアントプログラム(運用管理クライアント(Windows(32bit))、クライアント(Windows(32bit)))
- オンラインヘルプ
- オンラインマニュアル
- ソフトウェア説明書

3. インストールについて

メディアパックは、DVDで提供されます。

インストールにはDVDドライブユニットが必要です。

DVDドライブユニットが搭載されていないマシンの場合は別途手配が必要です。

なお、DVDドライブユニットを入手できない場合は、ファイル共有を利用したネットワークインストールが可能です。（ただし、ローカルのDVDドライブユニットと比べて作業時間を要します。）インストールする場合、DVD装置が接続されているPRIMERGYまたはFMVのDVDドライブをNFSにてマウントし、ネットワーク経由でインストールを行います。

4. 製品の組み合わせに関する注意事項

Solaris 11(64bit)上での製品組み合わせに関する注意事項です。

・グローバルサーバ上の帳票資源を資源配付で受信・中継する場合で、Solaris 上で動作する、Systemwalker Centric Manager製品と以下の製品を 同一サーバ上に導入する場合には、32ビット商品同士の組み合わせで使用してください。

- Linkexpress V5.0以降

5. クライアント

Xウィンドウ上で動作するGUI画面はありません。サーバの環境設定ならびに監視コンソール用として、別途PC端末(AT互換機)に運用管理クライアントの導入が必要です。

以下の条件を満たすPC端末を用意してください。

・CPU： 2.0GHz 以上、メモリ：4GB以上

Copyright 2023 Fujitsu Limited

6. クラスタシステムの管理

本商品は、クラスタ運用をサポートしていません。クラスタ運用を行う場合には、Systemwalker Centric Manager Enterprise Editionをご利用ください。

7. Oracle Solaris Legacy Container(zone)においてnon-global zone,kernel zoneを利用する場合の制限

non-global zone,kernel zoneのアプリケーションを管理／監視する場合、各non-global zone,kernel zoneに業務サーバをインストールする必要があります。

non-global zone,kernel zoneにおける性能情報の管理／監視を行うことはできません。

8. リモートデスクトップ接続を行う場合の注意事項

(1)SystemwalkerコンソールなどのGUIの複数起動について

リモートデスクトップ接続で同一コンピュータに複数のユーザがログオンしても、そのコンピュータ上で起動できるSystemwalkerコンソールは1つだけとなりますので、リモートデスクトップ接続時には、接続先のコンピュータ上でSystemwalkerコンソールを操作することができません。

このほかにも、インベントリ管理画面、ソフトウェア修正管理画面など、各GUIは1つだけ起動できます。

(2)電源制御について

電源切断対象の端末にリモートデスクトップ接続を行っている状態で、クライアントの電源切断を行った場合、電源切断が中止されます。

強制的に電源切断を行いたい場合は、電源切断オプション指定する必要があります。

(3)接続形態について

以下の操作については、リモートセッションで接続した場合は使用できませんので、コンソールセッションで接続してください。

- Systemwalkerのインストール
- バックアップ
- 保守情報収集ツール

(4)利用できない機能

以下の機能は、リモートデスクトップ接続での使用はできません。

- 環境作成
- リストア
- リモートコマンドAPI

9. プラットフォームとバージョンの混在について

(1) プラットフォームやバージョンを混在して接続した場合について

使用できる機能は、それぞれのSystemwalker Centric Managerが共通でサポートしている範囲です。

(2) 運用管理サーバと部門管理サーバ／業務サーバの組み合わせについて

プラットフォームの混在環境において、マネージャ（運用管理サーバ）とエージェント（部門管理サーバ、業務サーバ）は、V/Lが異なっていても接続できます。

本製品を、旧V/Lの運用管理サーバ、部門管理サーバ、または、業務サーバと接続した場合、旧V/Lの機能範囲で使えます。

(3)運用管理サーバと運用管理クライアントの接続性について

〔V13.0.0以降V13.3.1以前の場合〕

運用管理サーバと運用管理クライアントは、同一OS版の同一メジャーバージョン間でだけ接続可能です。

ただし、メジャーバージョンが同一であっても、旧マイナーバージョン(レベル)の運用管理クライアントから新マイナーバージョン(レベル)の運用管理サーバには接続できません。

〔V13.4.0 以降の場合〕

V13.4.0 以降の運用管理クライアントは、V13.4.0 以降の運用管理サーバにだけ接続できます。

Copyright 2023 Fujitsu Limited

また、V13.4.0 以降の運用管理サーバに接続できるのは、V13.4.0 以降の運用管理クライアントだけです。
接続できない場合は、接続時に運用管理クライアントに以下のメッセージが表示されます。

「このユーザは、指定した管理ドメインに対してログインを許可されていません。」

〔V15.0.0以降の場合〕

運用管理サーバと運用管理クライアントは、同一OS版の同一メジャーバージョン間でだけ接続可能です。
ただし、メジャーバージョンが同一であっても、旧マイナーバージョン(レベル)の運用管理クライアントから新マイナーバージョン(レベル)の運用管理サーバには接続できません

10. 他製品との共存について

Systemwalker Centric Managerと共存できないソフトウェアおよび共存時に注意が必要なソフトウェアは以下のとおりです。

〔共存できないソフトウェア〕

・運用管理クライアントとクライアントは、以下の製品とは共存できません。

- Systemwalker Live Help Client
- Systemwalker Live Help Expert
- Systemwalker Live Help Connect
- Systemwalker Desktop Patrolのリモート操作機能

・リモート操作機能を使用する場合は、以下の製品とは共存できません。

- 他社のリモートコントロール製品
- XenApp （MetaFrame および、Citrix Presentation Serverは、XenAppに名称が変更になりました。）

〔利用する機能により共存できない製品〕

・資源配付エージェントを使用する場合は、以下の製品と共存できません。

- Systemwalker Operation Manager V13.2.0以前

〔共存時に注意が必要なソフトウェア〕

・運用管理クライアントでは、以下の製品とは共存できません。

- Interstage Application Server Enterprise Edition V10以降
- Interstage Application Server Standard-J Edition V10以降
- Interstage Web Server Express V11
- Interstage Business Application Server Standard Edition V10.0以降
- Interstage Business Application Server Enterprise Edition V10.0以降
- Interstage List Works Enterprise Edition V9.0以降
- Interstage Shunsaku Data Manager Enterprise Edition V9以降

11. Windows 8.1、Windows 10での使用に関する注意事項

(1) システム監視

・イベントログへの出力文字列に、JIS X 0213:2004で新規に追加された文字を含む場合、そのメッセージを正しく監視できません。

・ログファイル監視機能を使用して対象のログファイルの内容に、JIS X 0213:2004で新規に追加された文字を含む場合、そのログを正しく監視できません。

・リモートコマンド発行におけるコマンド文字列（コマンド名、パラメタ）やその応答文字列に、JIS X 0213:2004で新規に追加された文字を含む場合、正しく実行できません。

(2) リモート操作

・JIS X 0213:2004で新規に追加された文字を含むユーザ／グループでWindowsにログインし、リモート操作クライアントを除くリモート操作の機能を使用することができません。

・リモート操作中にWindows 8.1/Windows 10の「ユーザの切り替え」を選択するとリモート操作が中断します。

Copyright 2023 Fujitsu Limited

・Clientにセッションを接続した状態で、「ログオフ」操作を実行するとセッションが自動的に切断します。

(3) アクション実行

・画面を表示するようなアプリケーションは指定できません。

(4) 文字コード

・JIS X 0213:2004で新規に追加された文字を以下に指定しないでください。

- コンピュータ名
- GUI画面
- コマンドのオプション
- APIのパラメタ
- Systemwalkerスクリプトのスクリプトファイル、入力データ

12. インストールレス方式での監視について

(1) Systemwalker Centric Managerをインストールしない（インストールレス方式）で業務サーバ/クライアントを監視する場合、Systemwalker Centric Managerをインストールした場合と比べ、下表のような差異があります。

(2) エージェントをインストールした場合はリアルタイムで監視しますが、インストールしない場合は一定時間間隔で情報を取得し、監視します。

(3) 1台の監視サーバで監視できる業務サーバ/クライアントは300台までです。301台以上の大規模構成の場合は、部門管理サーバを導入し、3階層構成にする必要があります。

(4) 本方式でのサポート対象プラットフォームについては、Systemwalkerのホームページを参照してください。

エージェントをインストールした場合との差異

記号の説明） ○：使用できます。 ×：使用できません。

機能	プロセッサライセンス(エージェント用)を購入した場合		プロセッサライセンス(イベント監視エージェント用)を購入した場合	
	エージェントをインストールした場合	インストールレス方式の場合	エージェントをインストールした場合	インストールレス方式の場合
インベントリ管理	○	○(注1)	○(注1)	○(注1)
イベント監視	○	○	○	○
リモートコマンド	○	○	○	○
ログファイル監視	○	○(注2)	○	○(注2)
アプリケーション監視	○	○(注3)	×	×
サーバ性能監視	○	○(注4)	×	×
リモート電源制御	○	×	×	×
監査ログ収集	○	×	○	×

注1） ハードウェア情報/ソフトウェア情報の一部のみ収集不可。
収集内容がエージェント導入の場合と異なる場合あり。

注2） ファイル名が途中で変わるログファイルは監視不可。
共有ディスク上のログファイルは監視不可。

注3） アプリケーションの稼働違反監視、プロセス数違反監視、稼働違反時のプロセス制御、稼働違反抑止/再開 が可能。

注4） しきい値監視（CPU使用率、実メモリ使用率、ディスク使用率）が可能。
ただし イベント自動対処は不可。復旧イベントで代替可能。

13. SAN boot/自動リカバリについて

被監視サーバにおいて、SAN boot環境で自動リカバリを行った場合、インベントリ情報として収集している以下のハードウェア情報と、実際の情報に差異が発生します。このような場合には、再度インベントリ情報を収集することにより、正しい情報に回復することができます。

Copyright 2023 Fujitsu Limited

・MACアドレス
・メモリサイズ
・CPUタイプ
・CPUクロック数

14. オンラインマニュアルについて

オンラインマニュアルは 以下のとおりです。

・Systemwalker Centric Manager マニュアル体系と読み方
・Systemwalker Centric Manager リリース情報
・Systemwalker Centric Manager 必須パッケージ 【Linux】
・Systemwalker Centric Manager 解説書
・Systemwalker Centric Manager 導入手引書
・Systemwalker Centric Manager 使用手引書 監視機能編
・Systemwalker Centric Manager ソリューションガイド コリレーション編
・Systemwalker Centric Manager 使用手引書 セキュリティ編
・Systemwalker Centric Manager 使用手引書 資源配付機能編
・Systemwalker Centric Manager 使用手引書 ソフトウェア修正管理機能編
・Systemwalker Centric Manager 使用手引書 リモート操作機能編 ユーザーズガイド
・Systemwalker Centric Manager 使用手引書 リモート操作機能編 Clientガイド
・Systemwalker Centric Manager 使用手引書 リモート操作機能編 Connect管理者ガイド
・Systemwalker Centric Manager 使用手引書 グローバルサーバ運用管理ガイド
・Systemwalker Centric Manager 使用手引書 監視機能編（互換用）
・Systemwalker Centric Manager Interstage,Symfoware,ObjectDirectorとの共存ガイド
・Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル
・Systemwalker Centric Manager API・スクリプトガイド
・Systemwalker Centric Manager バージョンアップガイド
・Systemwalker Centric Manager メッセージ説明書
・Systemwalker Centric Manager 高信頼化適用ガイド
・Systemwalker Centric Manager 運用管理サーバ二重化ガイド（連携型）
・Systemwalker Centric Manager 運用管理サーバ二重化ガイド（独立型）
・Systemwalker Centric Manager クラスタ適用ガイド UNIX編
・Systemwalker Centric Manager クラスタ適用ガイド Windows編
・Systemwalker Centric Manager 全体監視適用ガイド
・Systemwalker Centric Manager インターネット適用ガイド DMZ編
・Systemwalker Centric Manager Open監視 ユーザーズガイド
・Systemwalker Centric Manager クラウド監視ユーザーズガイド
・Systemwalker Centric Manager/Systemwalker Event Agent トラブルシューティングガイド 監視編
・Systemwalker Centric Manager/Systemwalker Software Delivery トラブルシューティングガイド 資源配付編
・Systemwalker Centric Manager/Systemwalker Event Agent Q&A集
・Systemwalker Centric Manager 用語集
・Systemwalker Centric Manager Interstage Application Server 運用管理ガイド

15. IPv4ネットワーク／IPv6ネットワークの混在環境について

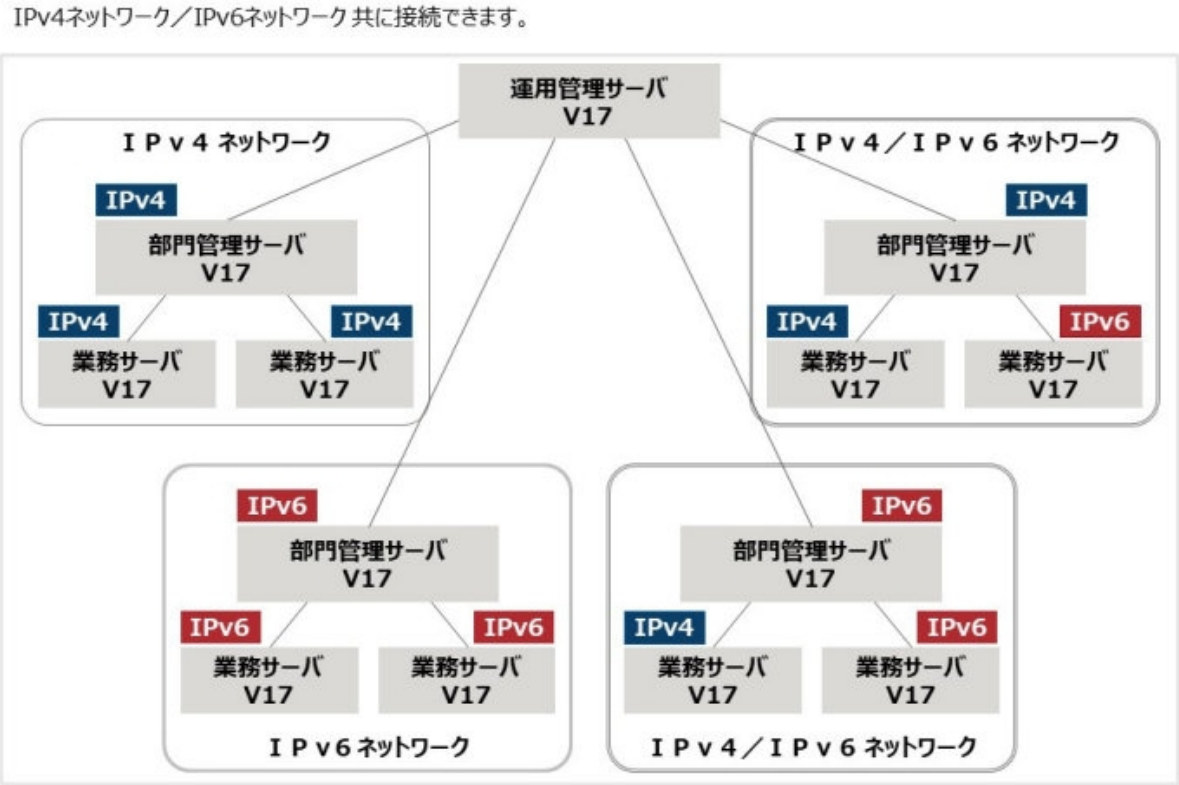
Copyright 2023 Fujitsu Limited

IPv4ネットワーク／IPv6ネットワークの両方を利用できます。

ただし、サーバ階層の上位にV13.5以前が存在するシステム構成の場合は、IPv6ネットワークは利用できません。

詳細は、以降の図を参照してください。

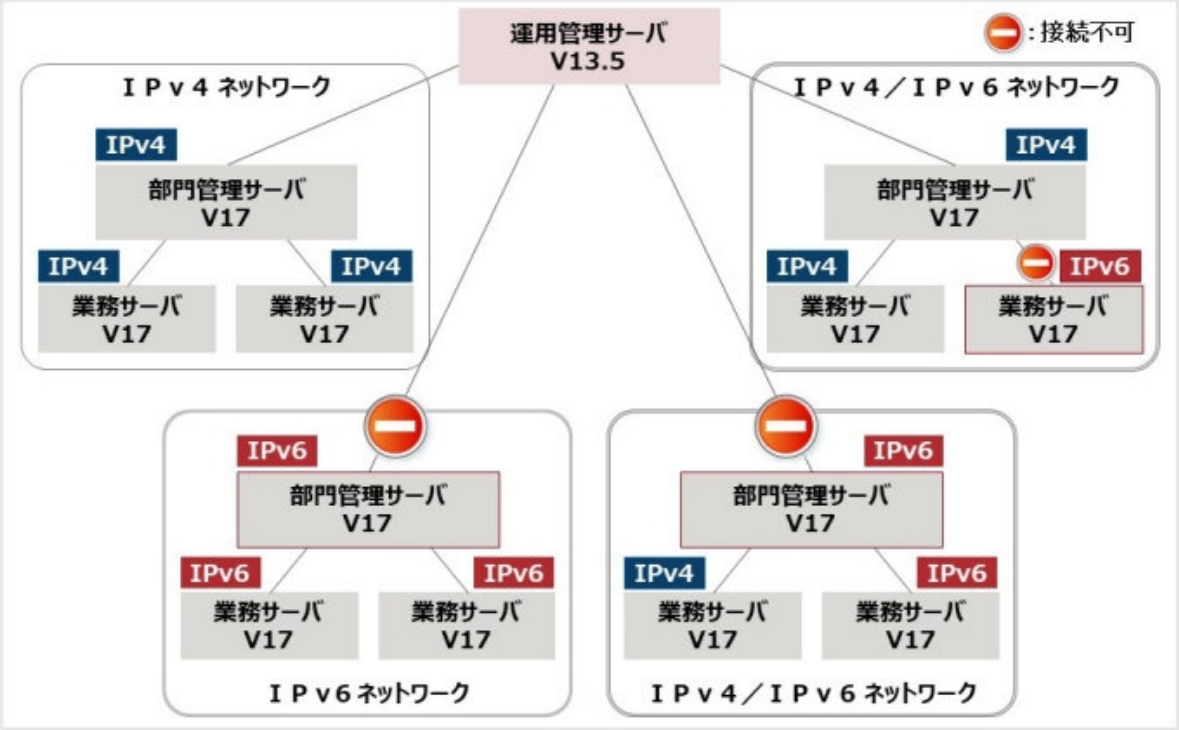
運用管理サーバ／部門管理サーバ／業務サーバがすべてV17の場合



Copyright 2023 Fujitsu Limited

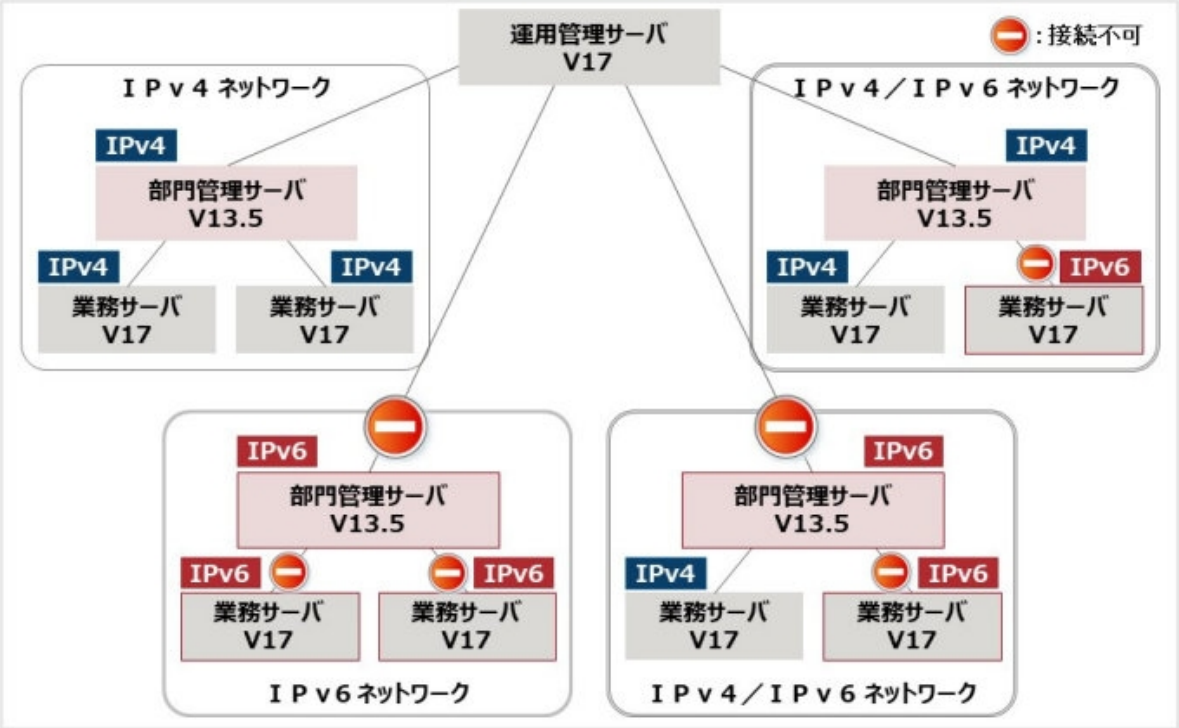
運用管理サーバがV13.5以前の場合

サーバ階層の上位にV13.5以前の運用管理サーバが存在する場合、IPv4ネットワークのみ接続できます。



部門管理サーバがV13.5以前の場合

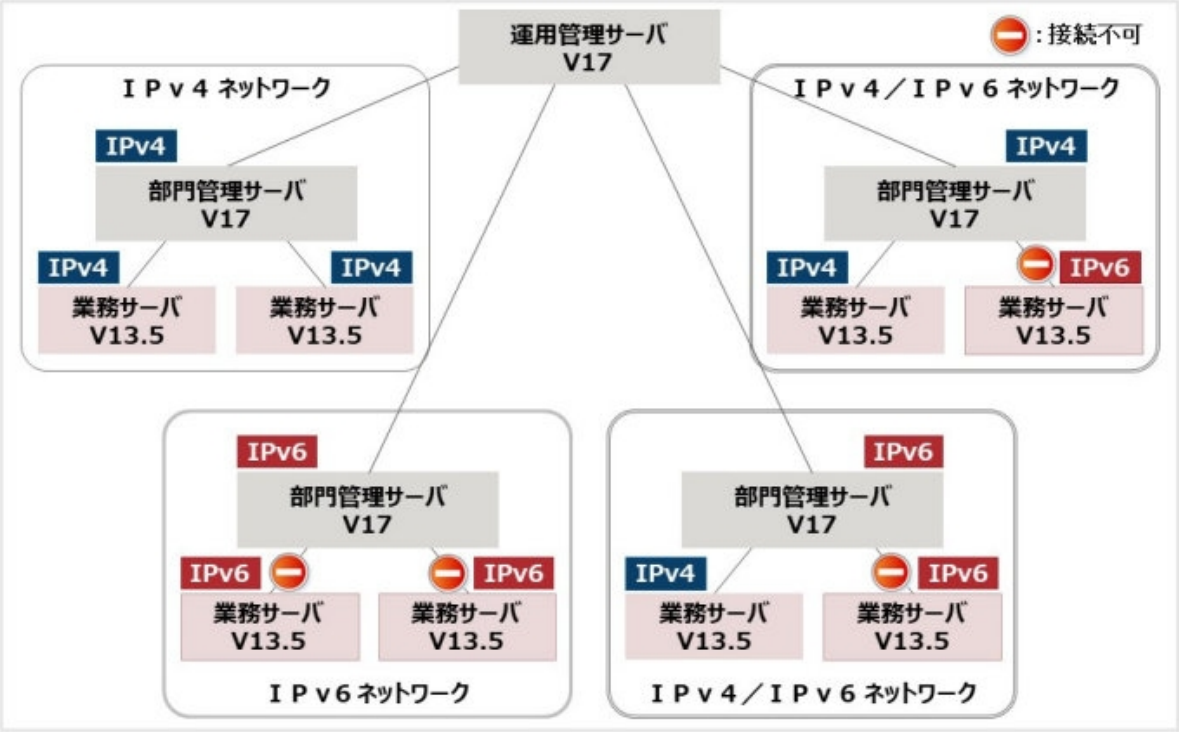
V13.5以前の部門管理サーバと接続する場合、IPv4ネットワークのみ接続できます。



Copyright 2023 Fujitsu Limited

業務サーバがV13.5以前の場合

V13.5以前の業務サーバと接続する場合、IPv4ネットワークのみ接続できます。



16．IPv6環境での動作についての注意事項

(1) 運用管理可能なIPv6アドレスの種類

Systemwalker Centric Managerで運用管理することができるIPv6アドレスの種類は、以下のとおりです。

・グローバルアドレス

・ユニークローカルアドレス

(2)IPv6ネットワークを利用する場合の、Systemwalker Centric Managerのバージョンレベルについての注意事項

〔運用管理サーバのバージョンレベル〕

IPv6ネットワークを利用する場合は、運用管理サーバのバージョンレベルをV13.6.0以降としてください。

〔業務サーバ、およびクライアントをIPv6環境で運用する場合〕

V13.6.0以降のSystemwalker Centric ManagerをIPv6ネットワークで利用する場合、部門管理サーバ、業務サーバ、およびクライアントは、以下のバージョンレベルで運用する必要があります。

・業務サーバをIPv6環境で運用する場合、運用管理サーバへの中継サーバとなる部門管理サーバもSystemwalker Centric Manager V13.6.0以降である必要があります。

・クライアントをIPv6環境で運用する場合、運用管理サーバへの中継サーバとなる部門管理サーバ、業務サーバも Systemwalker Centric Manager V13.6.0以降である必要があります。

〔アクション（ポップアップ、音声、ショートメール）を実行する場合〕

アクション（ポップアップ、音声、ショートメール）を実行する際、アクションを要求するホストと、実際にアクションを実行するホストが同一でない環境にすることができます。

このような環境で、IPv6通信を利用してアクションを実行する場合、すべてのサーバ、およびクライアントに、V13.6.0以降のSystemwalker Centric Managerをインストールしてください。

(3) IPv4アドレス、IPv6アドレスのみを持つ、サーバ、クライアント、ネットワーク機器を監視する場合の注意事項

・IPv6アドレスのみを持つサーバ（運用管理サーバ、部門管理サーバ、業務サーバ）から、IPv4アドレスのみを持つサーバ、クライアント、ネットワーク機器を監視することはできません。

Copyright 2023 Fujitsu Limited

・IPv4アドレスのみを持つサーバ（運用管理サーバ、部門管理サーバ、業務サーバ）から、IPv6アドレスのみを持つサーバ、クライアント、ネットワーク機器を監視することはできません。

(4) IPv4アドレス、IPv6アドレスを持つコンピュータで動作させる場合の注意事項

〔IPバージョン決定について〕

一度使用するIPバージョンが決定すると、該当のIPバージョンで処理を続けます。

〔IPバージョンの決定方法について〕

ホスト名からIPv4とIPv6両方のIPバージョンのIPアドレスが解決できる場合、Systemwalker Centric Managerは、以下のようにswsetuseipコマンドで設定したIPバージョンで通信を行います。

・swsetuseipコマンドで”IPv4”が設定されている場合、IPv4アドレスで通信を行います。

・swsetuseipコマンドで”IPv6”が設定されている場合、IPv6アドレスで通信を行います。

ただし、以下の機能については、フレームワークデータベースに登録されているノード情報を元に通信を行うため、swsetuseipの設定に関わらず、代表インタフェース、または業務インタフェースを元に通信を行います。

・ネットワークの監視

・Systemwalkerコンソールより起動されるコマンドと画面の一部

〔運用管理サーバが所属するサブネットフォルダについて〕

IPv4アドレス、IPv6アドレスを持つコンピュータ上の運用管理サーバでは、フレームワークデータベース作成時に運用管理サーバが所属するサブネットフォルダが、swsetuseip（IPバージョン設定/表示コマンド)コマンドで指定したIPバージョンにより異なります。

・IPv4が設定されている場合、IPv4のサブネットフォルダが作成され、運用管理サーバはIPv4のサブネットフォルダに所属します。

・IPv6が設定されている場合、IPv6のサブネットフォルダが作成され、運用管理サーバはIPv6のサブネットフォルダに所属します。

17．性能監視機能の機能制限

下記のOSでは、性能監視機能の一部分に機能制限があります。

【対象】

・ 動作OSがOracle Solaris 11.1の場合（Oracle Solaris11.2以降は、OSに修正が含まれているため対象外となります。）

【機能制限】

性能監視機能のうち、下記の機能は機能制限となります。

・ ネットワーク性能監視の機能

ただし、Oracle Solaris 11.1にSRU9.5(SRU12071)とSRU11.1.19.6.0(SRU14051)を適用することにより制限が解除されます。

【使用可能な機能】

性能監視機能のうち、下記の機能は使用できます。

・ サーバ性能監視

18．ハードウェア資源について

(1) 資源配付

携帯端末への配付を行う場合、Microsoft Windows CEまたは、Palm OSが動作するモバイル端末が必要です。

(2) 監視

イベント監視でアクション定義として指定したアクションの種類により、運用管理クライアントに以下のハードウェアが必要です。

〔音声による通知を行う場合〕

・WAVEオーディオカード（機種によりオーディオカードを搭載できない場合があります。）

(3) 障害復旧

Copyright 2023 Fujitsu Limited

リモートからクライアントの電源制御を行う場合、以下の条件を満たすハードウェアが必要です。

〔クライアントの電源投入〕

Wakeup on LANをサポートしている機種である。かつ、

Wakeup on LANをサポートしているLANカードが実装されている。かつ、

Wakeup on LANによる電源投入をBIOSレベルで有効になっている。

〔クライアントの電源切断〕

APM(Advanced Power Management)または、

ACPI(Advanced Configuration & Power Interface)をサポートしている機種である。かつ、

Windowsからの電源切断が可能になっている。

19. ソフトウェア資源について

(1) 監視

a) ネットワーク／システムの監視

トラップの監視、MIB監視の監視対象となるノードでは、以下のソフトウェアが動作している必要があります。

- トラップの監視、MIB監視を使用したネットワーク／システムの監視

・SNMPエージェント

- ネットワーク性能の監視

・MIB IIをサポートするSNMPエージェント

・RMON-MIBをサポートするSNMPエージェント(RMONとして監視する場合)

- システム性能の監視

・SNMPエージェント

b) イベント監視の条件定義

「イベント監視の条件定義」のCSVファイルをEvent Designerツールで変更、参照する場合、以下のソフトウェアが必要です。

・Microsoft Excel 2013 （32ビット版/64ビット版）

・Microsoft Excel 2016 （32ビット版/64ビット版）

・Microsoft Excel 2019 （32ビット版/64ビット版）

・Microsoft Excel for Office 365（32ビット版/64ビット版）

(2) 評価

a) ネットワークの評価

性能情報の収集対象となるノードに必要な環境を示します。

・MIB IIをサポートするSNMPエージェント

・RMON-MIBをサポートするSNMPエージェント(RMONとして監視する場合)

b) システムの評価

性能情報の収集対象となるノードでは、SNMPエージェントおよびSystemwalker Centric Managerの性能監視拡張エージェントの機能が動作している必要があります。性能情報の収集対象は業務サーバです。

(3) 監査ログ分析

監査ログ分析機能を使用する場合、運用管理クライアントに以下のソフトウェアが必要です。

・Interstage Navigator Server Standard Edition V9.5まで

または

・Interstage Navigator Server Enterprise Edition V9.5まで

20. Verified Boot機能について

Copyright 2023 Fujitsu Limited

本商品はSolaris 11.2以降のVerified Boot機能に対応していません。

Verified Boot機能を有効にする場合、Verified Bootポリシーで検証対象のモジュールにUNIXおよびgenunixのみを設定してください。

21. 前版との違いについて

・下記機能のSolarisでの動作はサポート対象外になります。Windows版またはLinux版で提供している当該機能をご利用ください。

- 運用管理サーバ
- 部門管理サーバ
- Open監視エージェント

・以下の機能をサポート対象外としています。

- 資産管理機能
- Systemwalker SSO/共通ユーザー管理のエージェント機能

・以下のOSをサポート対象外としています。

- Solaris 10
- Solaris 9
- Windows Vista
- Windows 7
- Windows 8

Copyright 2023 Fujitsu Limited

関連URL

お客様向けURL

- ソフトウェア：富士通（Systemwalker Centric Manager）

  製品概要や動作環境、導入事例、価格等、製品紹介資料を幅広く提供しております。
  https://www.fujitsu.com/jp/software/systemwalker/centricmgr/

- ソフトウェア：富士通（インフォメーション&ダウンロード）

  「ライセンスについて、くわしく知る」の項で富士通製ミドルウェア製品のライセンスに関する解説、サポート期間などの情報を提供しております。
  https://www.fujitsu.com/jp/products/software/information-download/

Copyright 2023 Fujitsu Limited